

脳卒中 (脳血管疾患)

Bさん(70代女性、夫と二人暮らし)

脳卒中で倒れてしまったら、退院して家で生活することはできないのかな？

家に帰りたいけれど、
夫に迷惑をかけて
しまうかしら・・・

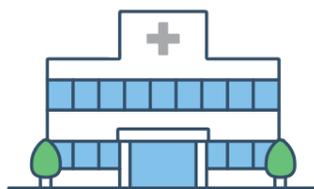
1人では寂しいから
帰ってきてほしいけれど、
介護できるかな・・・

脳卒中(脳出血や脳梗塞、クモ膜下出血など)は、突然発症することが多く、意識障害、手足や顔面の麻痺、失語症などがみられます。



1 発症・急性期の治療

急性期病院に入院し、原因を精査しながら治療を進めます。手術を行う場合もあります。



2 回復期の治療

病状が安定してきたら、リハビリを行うための病院へ転院します。(意識障害や麻痺、失語症などの重症度により検討されます)

歩行などの身体機能の回復を図るとともに、自宅での生活に向けた日常生活の訓練のためのリハビリを行います。



3

自宅での生活に向けた準備

p.20 ②退院に関する相談、③自宅での生活に向けた準備と同じ流れになります。

退院に関する相談窓口

- 多くの病院には退院支援のための専門窓口が設置されています。専門の看護師や医療ソーシャルワーカーが、退院後の生活や利用するサービスについて、在宅の医師や訪問看護師、ケアマネジャーなどと調整を行います。
- 病院以外の相談窓口として以下のものがあります。(p.18・19参照)
 - ・在宅療養支援窓口：訪問診療の案内など医療面を中心とした相談窓口
 - ・地域包括支援センター：福祉サービスや介護に関する相談窓口

4

在宅療養

麻痺が残り、外出がしづらくなってしまったので、自宅に来てくれるサービスを受けることにしました。外出を目標に、在宅療養生活を送っています。

訪問診療

医師が定期的に訪問し、病状を管理します。

訪問看護師

全身状態の観察、内服管理、介護相談・指導、家族のケアなどを行います。

訪問リハビリテーション

機能維持や自立に向けたリハビリテーションを自宅で行います。

訪問歯科

入院中に合わなくなった入れ歯の調整やお口のケアを行います。

訪問介護(ホームヘルパー)

移動や排せつ、入浴の介助を行います。

ショートステイ

夫の休息のため時々お泊りに行きます。

Bさんの経過

病院に入院し、急性期の治療を行いましたが、左半身に麻痺が残りました。Bさんは、夫と相談し、自宅に帰ることを目標に回復期リハビリテーション病院でリハビリを頑張りました。

5か月間のリハビリ後、Bさんは、自力で車いすに移れるようになりました。かかりつけ医と相談し、自宅に来てくれるサービス(訪問診療、訪問歯科、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問介護など)を利用しながら、在宅療養を開始しました。時々ショートステイを利用し、夫も休息をとりながら、住み慣れた自宅で暮らしています。